

となりのえんか

この村、このままでえんか。
わてらの子ども、このままでえんか



原作 岸キヌエ著「みやらけの子もり唄」

声の出演

カズエ(大人)
カズエ(少女時代)
カズエの幼なじみ、ミネ
カズエの父、竹松
カズエの母、くに子
カズエの弟、昭松
カズエの妹、すみ子
ミネの父
取立屋、若田
産婆
カズエの夫、伊佐夫
六郎(大人)
カズエの5男、朝
村の大学生、北村
大木
町の奥さん
老婆(ミネの母)

三橋京子
鈴根貴代美
新谷直子
丹羽雅太郎
名取幸政
竹口安芸子
橋本三千代
熊谷二ナ
岸野一彦
緒方賢一
水原リン
堀田真樹
堀田 等
志乃宮麻子
堀川 亮
一条和夫
岡本嘉子
崎田美也

挿入歌

『てくてつ坊主』
作詩
作曲
『安来節』
民謡
『もう一つの守唄』
伝承者
採譜
編曲

浅原鶴村
中山晋平

(作者不詳)
岸キヌエ
多田恵美子
坂上綾子

「ストン節」

作詩・作曲
「ちゃっきり節」
作曲
「大阪音頭」
作詩
作曲
「十九の春」
作詩
作曲
「露営の歌」
作詩
作曲
「教育闘争の歌」
作詩
作曲者不詳

合唱
歌唱指導

エンディングテーマ曲

「もう一つの守唄」

伝承者
編曲

歌

添田さつき
北原白秋
町田幸章

佐藤慧之助
佐々紅華

西条八十
江口夜詩

飯内昌一郎
古関裕而

日之出子ども会

日之出子ども会の皆さん
坂上綾子
(大阪市立淡路中学校音楽科教諭)

岸キヌエ
坂上綾子
手塚 理
鈴根貴代美
新谷直子

制作スタッフ

原作

考証・監修

方言指導

プロデューサー

脚本

監督

ディレクター

音楽

演出助手

キャラクターデザイン

作画監督

美術監督

撮影監督

作画監督補

原画

岸 キヌエ
「みやらけの子もり唄」
大賀喜子
(大阪市立西條鶴島高等学校
社会科教諭)
中村水名子
(大阪市立教育センター)
多比良健夫
にしばねよしこ
平田敏夫
二原田 修
手塚 理
吉岡 公
吉岡 誠

井裏 敦
渡辺由利夫
滝沢 嵩
柳瀬謙二/山崎登志樹
吉田利真/西村真世
栗田和子/榎本綾子
(シャフト)
(スタジオ雲雀)
(イマジン)
木口 幸/生井智子
今村春美/平松真澄美
三橋麻子/秋山多恵子
(シャフト)
長谷川悦子/新 結庵子
栗本幸江/吉田美紀

音楽

撮影

音響制作

音響監督

効果

出張録音

録音

録音スタジオ

編集

ネガ編集

タイトル

現像

制作

制作協力

制作・著作

完成

〈スタジオジャック〉

岩崎洋子/中島嘉典子
佐藤道子/高橋和博
中村久雄/渡辺 毅
日比野風子
末広孝史/橋田一展
市川 鶴/石井ゆり子
泉内達史/丸橋勢津子
オーティ プランニング ユー
小林克良
横山正和
(サウンドス・ユー)
坂田 実/若田修一
内山敬電
APUスタジオ
森田編集室
坂本雅紀
萩野丹書
シネブレーン
株東京現像所
小峰正敏/山浦宗春
北村勢津子/種塚育代
株式会社プロダクション
LIBERTY SHIP
株式会社プロダクション大阪支社
© 7341
1995年3月15日

制作意図

アニメーション映画「天気になあれ」には、原作があります。

それは国際識字年にあたる1991年(平成3年)に、ひのてよみかき教室の20周年記念として刊行された、岸キヌエさん著「みやらけの子もり唄 ー岸キヌエの生きてきた道ー」という本です。

この本は、1995年(平成7年)現在で80歳になられる岸キヌエさんが、よみかき教室に通う20年の間に書き続けてこられた文章をもとに、昭和初期の少女時代から昭和40年代の壮年期に至る記録を、第一部「おいたち」、第二部「むらの生活と歴史」、第三部「解放運動と識字」の三部構成にまとめられたものです。

その内容は、差別と貧困と戦争、そして解放への闘いという激動のドキュメントであって、彼女の人生は、差別に耐え、貧困に苦しみ、子どもたちの将来を託して闘った部落女の一つの典型といえるものでした。



大阪市教育委員会は、この本を素材にして、現代の子どもたちの為に過ぎ去った過去を再現させ、私たちが「いま・ここ」で真摯に取り組むべき課題につなぐものを発見させる同和問題啓発の視聴覚映像教材を作ろうと企画いたしました。そして、脚色するにあたって、次のような点を配慮することになりました。

- (1) このアニメーション映画の訴求対象を、小学高学年から中学生相当とします。
- (2) テーマは「今日なお私たちの社会に部落差別が存在するのはなぜか?」という問題提起です。子どもたちに部落差別の理不尽さを訴えかけ、解決のためにどうすればいいのかを語り合い、考えて、実行していただくことを期待しています。
- (3) 被差別部落や被差別体験者を題材にするとき、結果的にマイナス・イメージを植え付ける可能性はないかと危惧する声が聞かれます。今回、この点をよく留意して、明るく、力強く、前向きな姿勢を貫くようにしました。
- (4) 原作者、岸キヌエさんの生涯は現代史の、それも昭和史に重なり合っています。そこで被差別の境遇に生きてきた一人の女性の体験を通じて、その時代性を現在の子どもの心に感じさせることが重要であると考えました。全体構成では、昭和初期の部落の生活のしんどさに子ども心に負けん気で立ち向かった少女時代、戦争中の悪戦苦闘の時代、そして戦後、復興に取り残された被差別部落の窮状にたいして、「この村、これでええんか?」と立ち上がるまでの闘いの時代に分けて「生活がわかった」という実感が与えられるようなストーリー展開にしました。
- (5) 単に、「かってこんなことがあった」というのではなく、現在の子どものおかれている状況に合わせて、彼らの日常生活感覚に訴えかけ、ともに共感し、ともに考えられるような問題の投げかけを目指したいと考えています。

●お申し込み・お問い合わせは

(映) 有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp>

【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp

